

これまでの協議やアンケート結果をふまえた、  
今後の鈴鹿亀山地域における高等学校の学びと配置のあり方の方向性について（案）

実現したい学びや育みたい力など	今後の検討の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自ら学び続ける力</li> <li>・ 社会性やコミュニケーション能力</li> <li>・ 自ら問いを見つけ主体的に取り組む力</li> <li>・ 多様な選択肢の中から、自ら進路を決定する力</li> <li>・ 将来、地域産業を支える人材や地域で活躍する人材の育成につながる学び</li> <li>・ 地域社会とのつながりの中で育まれる学び</li> <li>・ これからの時代に必要とされる能力を育む学び（DXなど）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和 10 年度以降も中学校卒業生数の減少が続くことをふまえて対応する。</li> <li>・ 当地域には職業系専門学科が少ないことから、普通科のコースを含め、多様な学びの選択肢の維持・充実を図る。</li> <li>・ 大学進学ニーズに応える普通科については、できるだけ一定規模を維持し、充実を図る。</li> <li>・ 外国につながるのがある生徒や特別な支援を必要とする生徒、不登校を経験した生徒など、多様な生徒が安心して学べる学習環境を確保する。</li> <li>・ 通学方法や通学時間など、交通に係る状況を考慮する。</li> <li>・ 部活動の活性化や学校行事の充実のためには、一定の学校規模があることが望ましい。</li> </ul>